

平成 30 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業  
支援者研修会フォローアップ 事例検討会 報告書

## 事例検討会

目的：若年性認知症の一人ひとりの状態に応じた適切な支援ができるよう支援者を支援する。

具体的支援方法に対するディスカッションを通じて、病態の正しい理解促進、制度利用についての意見交換を行う。

1. 日時：2018年11月17日(土) 10時～12時 会場 新オレンジサポート室（宜野湾市普天間1-9-3）

### 2. 当日の様子

参加者数 2人（行政1名、医療1名）

内容：参加者より事例持ち寄りではなく、他の事例を知りたいという要望であった。若年性認知症支援コーディネーターより事例提供し、ケースを通してディスカッションを行った。

事例内容：地域に馴染めず、夫婦で孤立しているケース。

前頭側頭型認知症、発症はおそらく50歳代中頃と言われているが、診断は65歳時であった。自営業であったが、60歳前半に安定していた経営が急激に悪化し病に気付く。受診し診断つくが、告知できず、医療も途絶えがちであった。地域の活動について、地域包括より定期的に案内いただくが、参加はマンツーマンでのサポートを望まれており、地域のボランティア人材確保も課題であった。

介護保険申請し、要介護と認定結果がおりたことで、デイサービスの利用を検討しサービス開始され落ち着く。しかし間もなく、配偶者の病で、更に介護保険で訪問介護を利用し、支援が強化された。

このケースの深刻な課題は、診断名が付く前の数年間で生じた経済的なことであった。現在ご夫婦で療養され、支援者がいないことから、これらのプライベートな問題について介入が難しい。今の生活を支えながら、抱える課題について具体策を模索している。

ディスカッション内容：

（※若年性認知症支援コーディネーターのことをCNと以下表現しています）

CNより：前頭側頭型認知症の特徴的なエピソードとして紹介した。発症までの隠れた期間に起こる様々な深刻な問題について、支援者は10年単位で遡り、聞き取りしていかなければならないと感じるケースであった。

医療関係者より：病院にいと、このような病気の本質を知ることができない。家族や周囲の大変さはこのあたりなのかと思った。また、カンファレンスなどでも、医師の前では経済的な話は、みなさん避けるので、この点、この病については大事な聞き取りになると感じた。

所感：来月で今年度の事例検討会は終了となる。来年度の開催の有無、広報のあり方について、検討が必要である。

次回：平成30年12月15日(土) 10時～12時

事例持ち寄りの無い場合には、若年性認知症支援コーディネーターより事例を提供し、ケースを通してディスカッションを行います。お気軽にご参加下さい。（要申し込みです。お電話下さい。）

担当：新オレンジサポート室 中野（098-943-4085 または 080-6498-7367）

以上